



小学校のスキー指導における 学習内容の明確化と 指導プログラムの開発

授業力開発プログラム

村田雄大



背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題

積雪寒冷地において

伝統的・代表的な運動であるスキーの低迷



学校体育における

スキー指導の実施率低下が原因



三浦・竹原・米田・中村(2006)



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

大学のスキー実習の効果

- ・協同性、社会人基礎力の向上 松尾ら(2016)
- ・技能レベル、実践意欲の向上 永井ら(2017)



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------



-
- ・生涯スポーツ
 - ・スキー場の活性化
 - ・地域経済に貢献
- ・心身の成長
 - ・愛好的態度



背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題

スキー指導は、

- ・自然と関わりの深い運動の指導
- ・学校や地域の実態に応じて積極的に行うこと

→領域として定められていない。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編



背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題

- ・学校で作成している指導計画の具体的内容
- ・ゲレンデの選び方

→上記の研究は見当たらない。



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

- 明確化した学習内容
- 系統的な指導を行うためのプログラム
- 実態に応じたゲレンデの選び方

を提案するために、本研究の主題を設定した。



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

① フィールドワーク(岩手県内小学校9校)

- ・スキー学習に同行、指導

聞き取り調査(岩手県内小学校7校)

- ・課題、指導体制、指導計画など

② プログラム作成

- ・学習内容系統表、カリキュラムマップ、
ゲレンデコース選定表



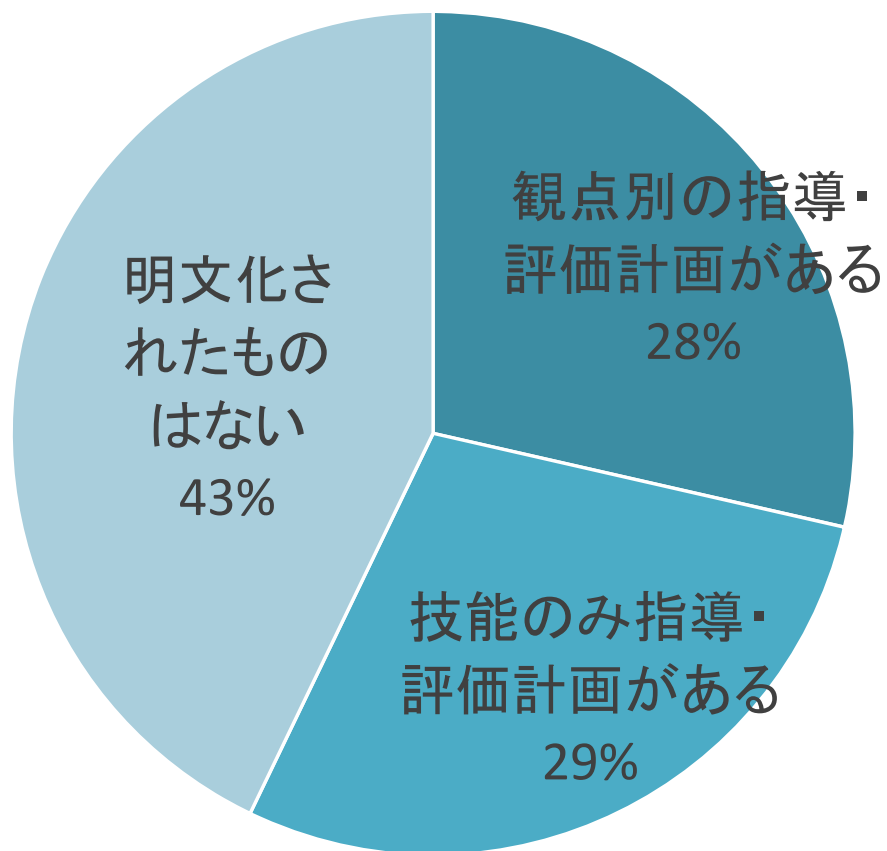
背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題



指導・評価計画の有無 (n=7)



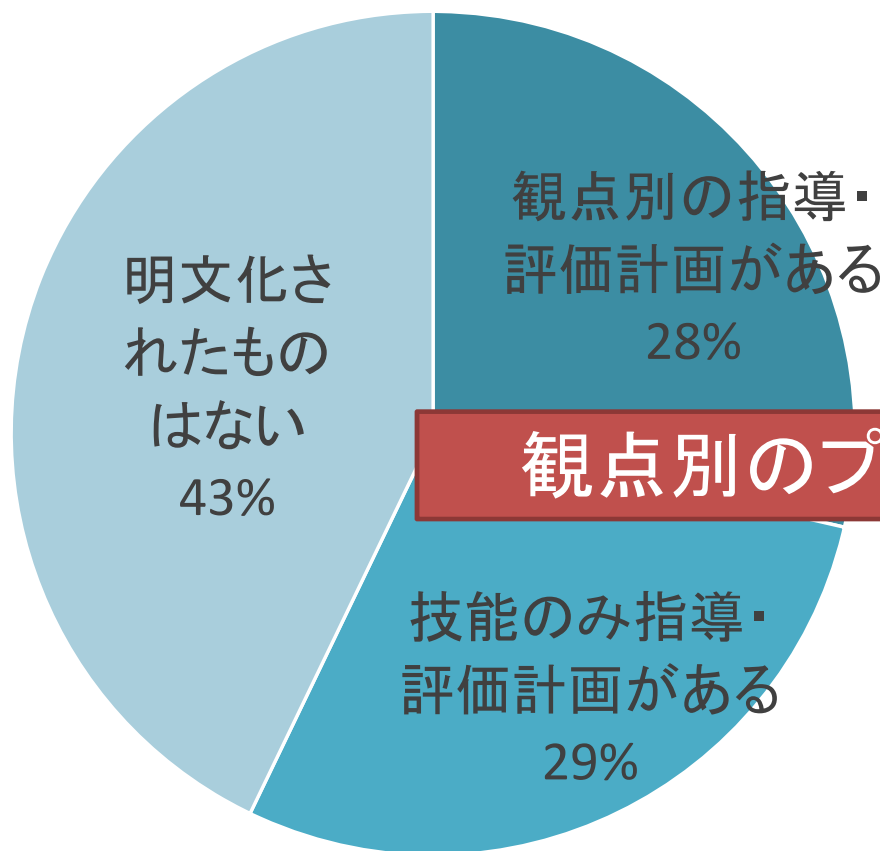
背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題



観点別のプログラムの必要性

指導・評価計画の有無 (n=7)



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

スキー指導時数カウント(単位:単位時間)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	平均
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

A小学校	8	8	8	8	7	7	8
B小学校	8	8	8	8	8	8	8
C小学校	6	6+2	6+2	6+2	6+2	6+2	8
D小学校	0	8+3	8+3	7+3	4+3	3+3	9
E小学校	0	8+2	8+2	8+2	8+2	8+2	10
F小学校	0	0	8+2	8+2	8+2	8+2	10
G小学校	0	0	8+4	8+4	6+3	6+3	11
平均	7	9	10	9	8	8	9

※+(プラス)は特別活動としてカウント。
それ以外は体育としてカウント。



背景・目的 方法 内容① 内容② 成果と課題

スキー指導時数カウント(単位:単位時間)

1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生 平均

A小学校	8	8	8	8	7	7	8
B小学校	8	8	8	8	8	8	8
C小学校	6	6+2	6+2	6+2	6+2	6+2	8
D小学校	0	8+3	8+3	7+3	4+3	3+3	9
E小学校	0	8+2	8+2	8+2	8+2	8+2	10
F小学校	0	0	8+2	8+2	8+2	8+2	10
G小学校	0	0	8+4	8+4	6+3	6+3	11
平均	7	9	10	9	8	8	9

※+(プラス)は
特別活動として
カウント。
それ以外は体育
としてカウント。

体育として確立する必要性



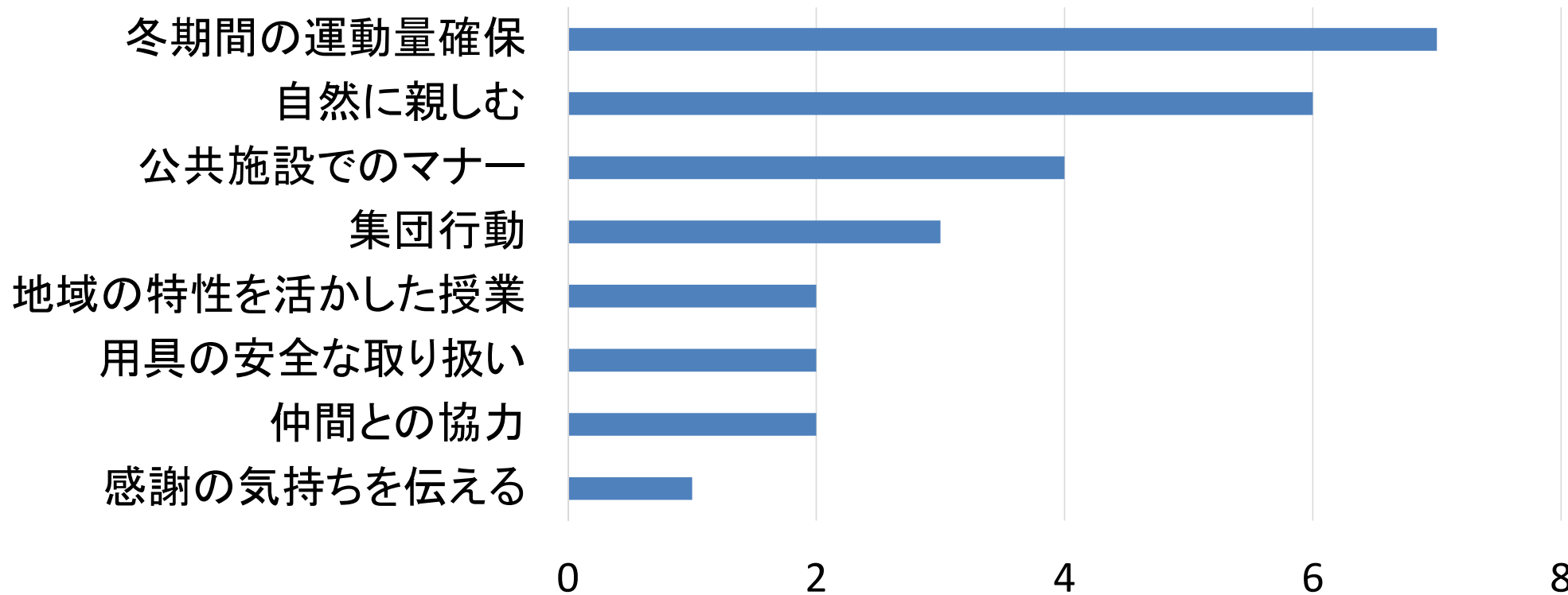
背景・目的

方法

内容①

内容②

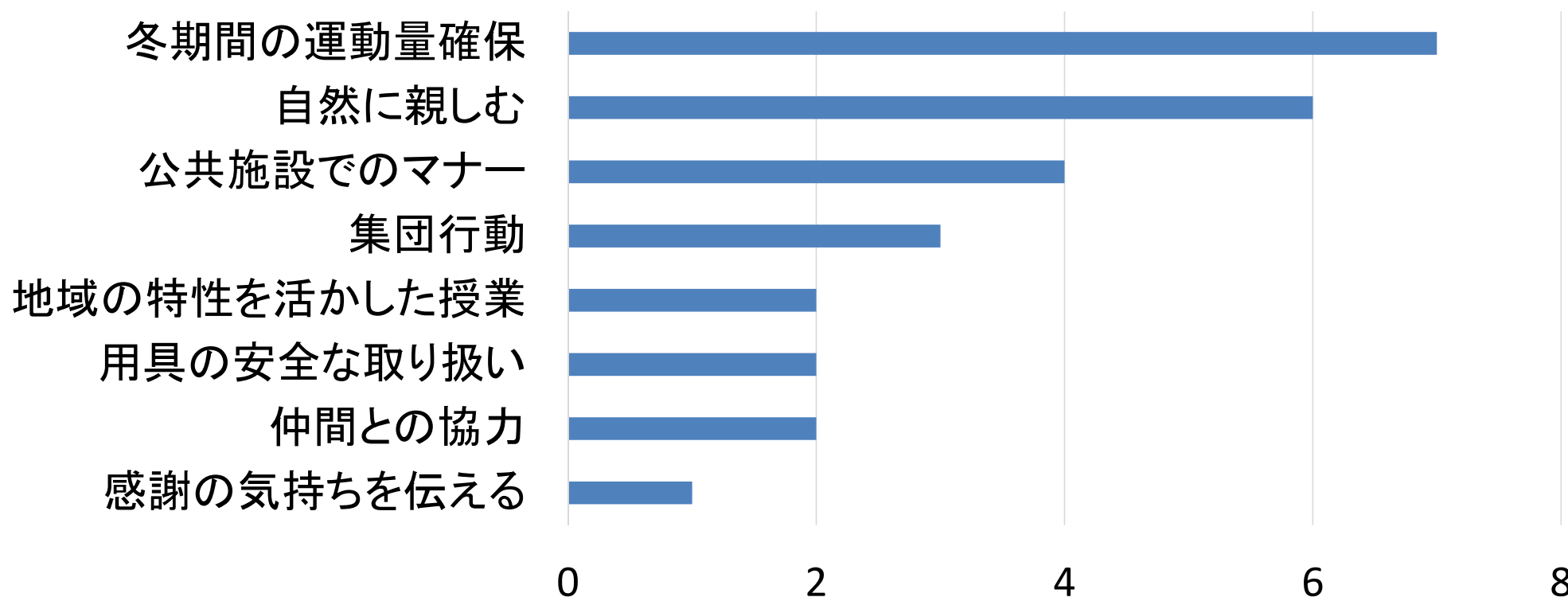
成果と課題



スキー指導のねらい n=7(複数回答可)



背景・目的 方法 内容① 内容② 成果と課題

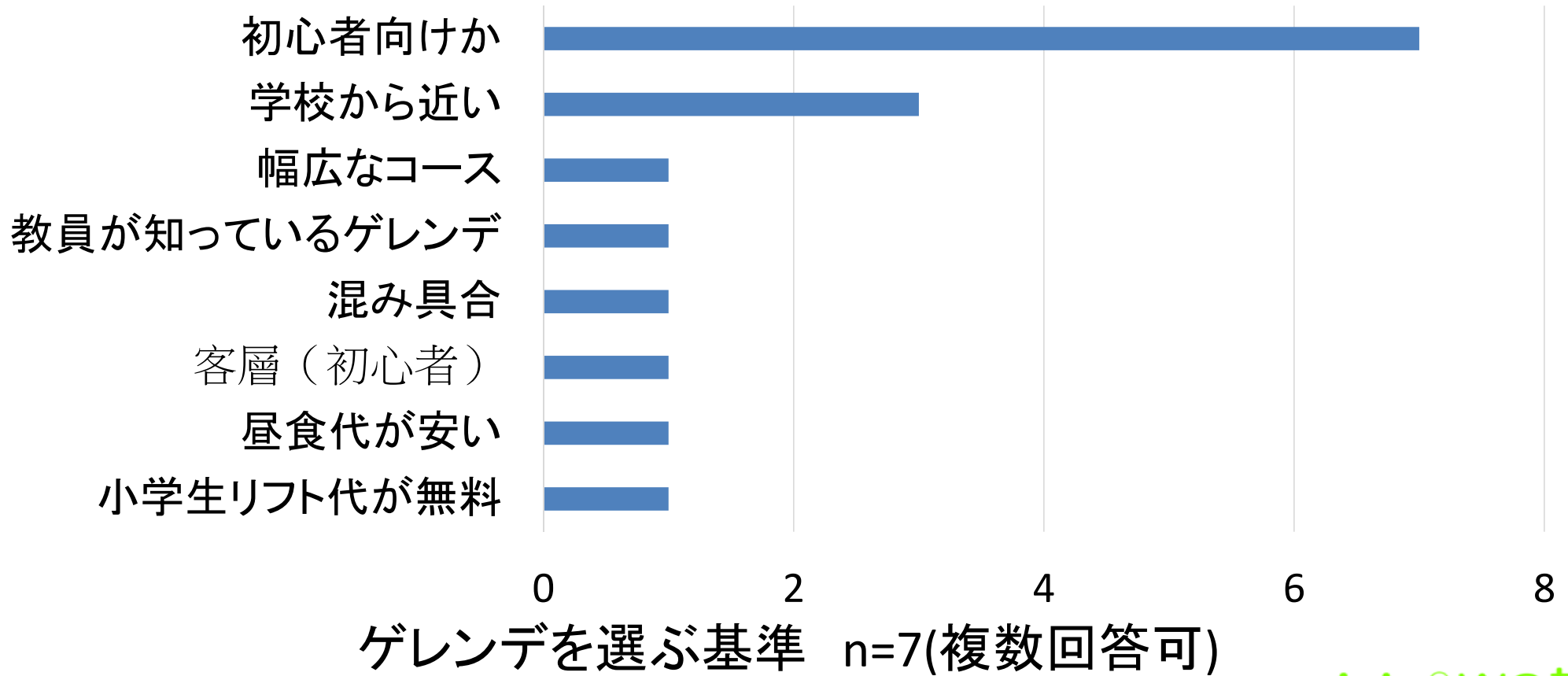


スキー指導のねらい n=7(複数回答可)

スキー指導の意義の見直し

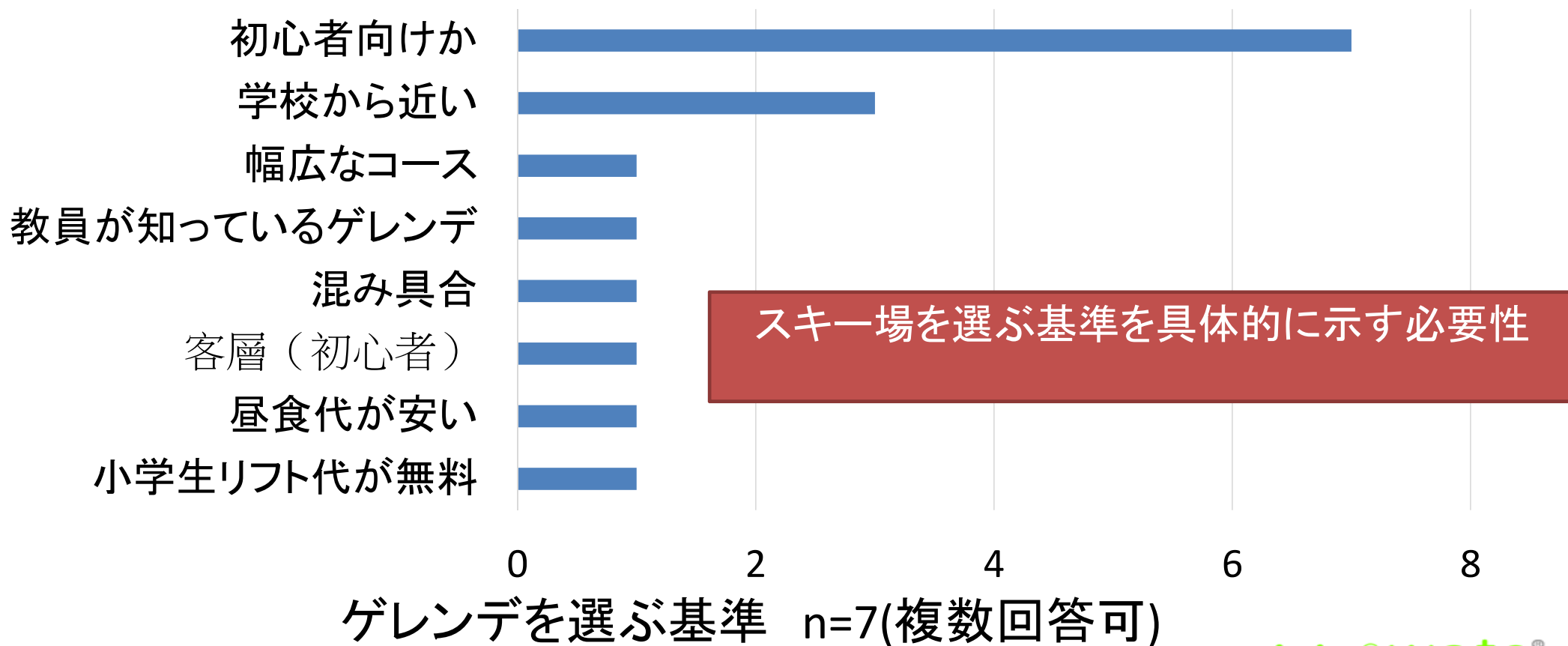


背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------





背景・目的 方法 内容① 内容② 成果と課題





背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

指導体制

- ・ボランティア（保護者、インストラクター）の協力

評価体制

- ・「ボランティアに任せている」もしくは「教員のみ」



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

指導体制

- ・ボランティア（保護者、インストラクター）の協力

評価体制

- ・「ボランティアに任せている」もしくは「教員のみ」

ボランティアにも指導・評価内容を示す必要性



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

調査結果に対する考察

- 観点別のプログラムの必要性
- 体育として確立する必要性
- スキー指導の意義の見直し
- スキー場を選ぶ基準を具体的に示す必要性
- ボランティアにも指導・評価内容を示す必要性



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

調査結果に対する考察より

- 領域に準ずるものとしてスキー指導を確立する
→ 学習内容系統表
- 他教科との関連付けをする
→ カリキュラムマップ
- スキー場の選び方を示す
→ ゲレンデ・コース選定表



背景・目的 方法 内容① 内容② 成果と課題

	技能	知識	思考・判断・表現	態度
1・2年生	スキーを履いて、平地を歩いたり、斜面を登ったりすること。 斜面で真っ直ぐ滑ったり、止まったりすること。 (プルークボーゲン)	運動の行い方を知るとともに、スキーの用具の扱い方や名称について理解する。 (「エッジ」「ストック」など)	スキーを履いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動したり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
3・4年生	斜面で横切るように滑ったり、曲がったり、止まったりすること。 (プルークターン)	運動の行い方を知るとともに、用語を理解すること。(「山側」「谷側」「フォールライン」など)	自己の能力に適した課題を見つけ、動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲良く運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
5・6年生	斜面でスピードをコントロールしながら滑ったり、曲がったり、溜まったりすること。 (シュテムターン)	運動の行い方を知るとともに、技術の名称を理解すること。 (「パラレルターン」「加重、抜重」など)	自己の課題に適した課題解決の仕方や斜面に応じた滑り方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や安全に気を付けたりすること。

学習内容系統表



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

	技能	知識	思考・判断・表現	態度
1・2年生	プルーク滑降	運動の 行い方	自分の考えを 形成	感情や 行動を 統制
3・4年生	プルークターン		課題解決	協働
5・6年生	シュテムターン		創造	多様性の 尊重

学習内容系統表



背景・目的

方法

内容①

内容②

他領域にも通じる

	技能	知識	思考・判断・表現	心身
1・2年生	プルーク滑降	用具	自分の考えを形成	感情や行動を統制
3・4年生	プルークターン	場	課題解決	協働
5・6年生	シュテムターン	技術	創造	多様性の尊重

学習内容系統表



背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題

4月

スキー指導(10時間)

3月

体育

自然との関わりの深いスキー

保健

けが

理科

天気

道徳

自然

自然

自然

家庭科

衣服(夏)

衣服(冬)

カリキュラムマップ(5年生の例)



背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題

スキー場・コース(例) 選定理由

1年生

平均斜度5度
八幡平リゾートパノラマスキー場
ビギナーパーク

・歩いて登れて、滑っても勝手に止まれる斜面。

2年生

3年生

4年生

平均斜度8度
岩手高原スノーパーク
初級コースサンモリッツ

・緩斜面で、スピードが出にくい斜面。また、
コース幅が広いため安全面に配慮しやすい。

5年生

6年生

平均斜度11度
岩手高原スノーパーク
中級コーススコバレー第2

・コース幅が広く安全に配慮しやすい。中級コース
でスピードが出やすいので、スピードコントロール
や荷重の仕方などを学習しやすい。

ゲレンデ・コース選定表



背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題

成果①(実施調査結果より)

学校の実態を把握することができた。

- 系統的な指導プログラムが確立されていない。
- 特別活動としてもカウントしている。
- 体育以外の学習内容も含まれていた。



背景・目的	方法	内容①	内容②	成果と課題
-------	----	-----	-----	-------

成果②(プログラム作成より)

- 4観点で、学年別の学習内容を明らかにした。
- 知識に関する学習内容を明らかにした。
- スキー指導と各教科とを関連付ける例を示した。
- 学習者に合わせた斜面選びができるようにした。



背景・目的

方法

内容①

内容②

成果と課題

課題

- 「思考力・判断力・表現力」「態度」の学習内容を意識した授業展開を明らかにする。
- 技能や経験の違いによるグループ分けの仕方を明らかにする。
- 技能や能力差に応じた適切な指導内容とゲレンデの選択の仕方を明らかにする。

【主要参考文献】

財団法人日本スキー連盟(1981). 日本スキー指導教本. スキージャーナル

永井 将史・東山 昌央・大石 示朗・本田 宗洋(2017). 本学スキー実習の
取り組みと学習成果に関する報告.

東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要 52 pp119-126

松尾 美香・西村 次郎・山崎 めぐみ・望月 雅光(2016). 大学における自然体験
学習のねらいとその教育効果に関する研究-スキー実習を対象にして-.

岡山理科大学紀要 52 pp49-59

三浦 裕・竹原 祥介・米田 健二・中村 正道(2006). 北海道上川管内の中学校に
おけるスキー授業の現状と課題. 僻地教育研究 61 pp1-8

ご静聴ありがとうございました。